

念佛の道場としての本山

総 務 藤 谷 知 良

昨年の能登半島地震から一年が経過し、さらに九月には豪雨による災害が発生しました。今もなお、多くの方々が生活の基盤を失い、困難な日々を過ごされております。ここに心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心から願っております。

本年は穏やかなお正月を迎え、本山においても御正忌報恩講をお勤めさせていただきました。山内では献書展や竹あかりを行い、皆様に参詣していただく機会を作りました。今年も多くの方々と共に、御開山聖人のみ教えを改めて学び、心を一つにしてお勤めをすることができたことを大変ありがたく思います。

一方で、檀信徒の寺離れが急速に進み、また多くの寺院で後継者が育たないという深刻な事態が加速しています。寺院の後継者問題、少子化・過疎化・核家族化に伴う教化活動の在り方など、大きな課題を抱えています。この状況は宗門にとって最重要課題であり、今こそ有効な対策を立てる必要があります。今後本山の財政にも大きくかわる問題ですので抜本的な取り組みが求められています。

昨年より、有識者の僧侶や檀信徒の方々と本山職員により財政委員会を構成し、この課題に取り組み始めました。

これらの課題に対し、教団としての現状を分析し、長期・中期・短期の視点で体系的に取り組んでいかなければならない時期にきています。そして、多種多様な問題が山積する現代社会において、人々の心の依り所となる場として、本山を念佛の道場として一層充実させていくことが求められています。より多くの方々に開かれた場となるよう、皆さまと共に考え、歩んでまいりたいと存じます。

宗 達

宗 達 第二一八号

法主殿来る令和七年三月二十日讚佛会に御親教相成る

令和七年一月十二日

法主鈐印

宗務総長
大僧都
増
田
修
誠

宗 告

宗 告 第二一七八号

来る令和七年三月十七日より同二十三日まで讚佛会執行相成る

令和七年一月十二日

宗務総長
大僧都
増
田
修
誠
総 務
中 僧 都
中 僧 都
藤 増
弓 藤 増
削 谷 田
弘 知 修
胤 良 誠

宗 告 第一一七九号

左記の通り平等院殿三年忌法会執行相成る

一、日 時 令和七年三月二十六日 速夜より同二十七日 日中まで

速 夜 二十六日 午後十二時三十分 (洪鐘撞止)

晨 朝 二十七日 午前 七時 (同)

日 中 午前十一時三十分 (同)

一、参勤者 一般寺院

一、衣 体 色衣・紋章五条袈裟・差袴着用

令和七年一月十二日

宗 告 第一一八〇号

来る令和七年四月六日より同十一日まで千部法会執行相成る

一、新加入者 六日、七日、八日

一、参勤者 一般寺院

一、衣 体 色衣、紋章五条袈裟、差袴着用

令和七年一月十二日

宗務総長	大僧都	増	田	修	誠
総務	中僧都	藤	谷	知	良
中僧都	弓	削	弘	胤	

宗 告 第一一八一号

来る令和七年四月六日 内々佛殿永代経執行相成る

令和七年一月十二日

宗務総長	大僧都	増	田	修	誠
総務	中僧都	藤	谷	知	良
総務	中僧都	弓	削	弘	胤

宗 告 第一一八二号

来る令和七年四月九日・十日十万人講法会執行相成る

一、参勤者 一般寺院

一、衣 体 色衣、紋章五条袈裟、差袴着用

令和七年一月十二日

宗務総長	大僧都	増	田	修	誠
総務	中僧都	藤	谷	知	良
総務	中僧都	弓	削	弘	胤

宗 告 第一一八三号

来る令和七年四月十一日午前十一時より戦没者追弔法会執行相成る

一、参勤者 一般寺院

一、衣 体 色衣、紋章五条袈裟、差袴着用

令和七年一月十二日

宗務総長 大僧都 増田修誠
総務 中僧都 藤谷田
中僧都 弓削弘胤

宗告 第一一八四号

左記の通り第二十三世堯祺上人三十三年忌法会執行相成る
一、日時 令和七年五月六日逮夜より同八日 日中まで

逮夜 六日 午後十二時三十分 (洪鐘撞止)
晨朝 七日 午前七時 (同)
日中兼逮夜 午前十一時三十分 (同)
晨朝 八日 午前七時 (同)
御参廟 午前九時 (洪鐘九吼)
日中 午前十一時三十分 (同)

一、参勤者 一般寺院
一、衣体 色衣・紋章五条袈裟・差袴着用
令和七年一月十二日

宗務総長 大僧都 増田修誠
総務 中僧都 藤谷田
中僧都 弓削弘胤

任 免

令和六年十二月六日

依請解其職

威儀視察 高島 裕成
威儀視察 高橋 法雄

令和七年一月九日

任 放送係を命ずる

轉輪寺衆徒 明星 隆希
猷忠寺衆徒 福田 和光

令和七年二月一日

録事見習を命ずる

慈光寺衆徒 藤山 真朋
延寿寺衆徒 富山 翔眞

庶務部庶務課付勤務を命ずる

録事見習 藤山 真朋
録事見習 富山 翔眞

令和七年二月一日

神戸別院佑事を命ずる

称名寺住職 北島 大道

組長交代

令和六年十二月三十一日

依請解其職

三重二十六組組長

日野 倫弘

令和七年一月一日

三重二十六組組長を命ずる

常教寺住職

野村 泰志

僧 階

令和七年一月二十九日

任 少僧都

權中僧都

広海 玄勝

身分堂班

令和七年一月二十一日

列 其身一代堂班

院家首席一等 准上座格三等
准上座格二等 准上座格一等
准上座三等 准上座二等

勝鬘寺副住職 長井 眞仁

褒 賞

令和七年一月十五日

法主褒賞

正福寺住職 (故)英 法悦

特許法衣

令和七年一月十日

一、薄藤色八藤白大紋差袴着用を許可する

福泉寺住職 佐々木妙理

還 俗

令和六年十二月十九日

岐阜県揖斐郡揖斐川町東津汲

等覚寺衆徒

谿花 晃明

令和七年一月九日

愛知県名古屋市中区門前町

来迎寺衆徒
来迎寺衆徒

宇佐美了迎
宇佐美了道

布教任命

修正会御繙御書 (日中)

一・一

大僧都

玉樹 真祥

修正会

一・二

晨朝

権少僧都

眞置 信海

一・三

日中

中僧都

藤谷 知良

一・三

晨朝

少僧都

千草 篤昭

日中

中僧都

弓削 弘胤

一月御影堂常在説教（晨朝）

一・四	權中僧都	藤浦	弘導
一・五	律師	隆	妙灑
一・六	權中僧都	中村	宜成
一・七	權大僧都	戸田	栄信
一・八	權中僧都	栗廼	隆興
一・九	律師	富田	健自
一・一七	權中僧都	田中	明誠
一・一八	權中僧都	三井	蓮孝
一・一九	律師	田中	唯聰
一・二〇	律師	若林	妙百
一・二一	中僧都	青木	義成
一・二二	權中僧都	鷺山	了悟
一・二三	少僧都	岡	知道
一・二四	權中僧都	栗真	光暁
一・二五	大律師	北畠	大道
一・二六	權大僧都	浦井	宗司
一・二七	律師	吉尾	真祐
一・二八	律師	田中	光明
一・二九	大律師	松谷	慧光
一・三〇	律師	隆	妙灑
一・三一	大律師	高島	光憲

一月御影堂常在説教（逮夜・日中）

一・七	逮夜	權中僧都	中村	宜成
一・八	日中	權少僧都	高藤	英光
報恩講				
一・九	逮夜	律師	田中	唯聰
一・一〇	晨朝	中僧都	佐藤	弘道
	初夜	權中僧都	生桑	崇等
	日中	權少僧都	真置	信海
	逮夜	律師	水谷	忍英
	初夜	少僧都	岡	知道
	大講堂	權中僧都	中村	宜成
	晨朝	律師	吉尾	真祐
	日中	權大僧都	戸田	栄信
	逮夜	權大僧都	浦井	宗司
	初夜	權中僧都	鷺山	了悟
	大講堂	權大僧都	松田	信慶
	晨朝	律師	北畠	心淳
	日中	權中僧都	藤浦	弘導
	逮夜	中僧都	芳川	賢史
	初夜	權中僧都	藤田	正知
	大講堂	律師	安藤	純海

一・一三	晨朝	権大僧都	中川 鳳瑞	二・三	権中僧都	中村 宜成
	日中	律 師	隆 妙灑	二・四	中僧都	佐藤 弘道
	逮夜	律 師	大河戸悟道	二・五	律 師	磐城 英嗣
	初夜	少僧都	千草 篤昭	二・六	権大僧都	戸田 栄信
一・一四	大講堂	少僧都	花山 光瑞	二・七	律 師	隆 妙灑
	晨朝	大律師	松谷 慧光	二・八	中僧都	青木 義成
	日中	権中僧都	田中 明誠	二・九	律 師	若林 妙百
	逮夜	中僧都	藤井 徳雄	二・一〇	律 師	堤 一真
	初夜	権中僧都	栗廻 隆興	二・一一	権中僧都	鷺山 了悟
一・一五	大講堂	権中僧都	島 義厚	二・一二	律 師	富田 健自
	晨朝	権中僧都	栗真 光暁	二・一三	大律師	松谷 慧光
	日中(復演)	権中僧都	栗原 廣海	二・一四	中僧都	青木 義成
	逮夜	権大僧都	金森 顕宏	二・一五	律 師	吉尾 真祐
	初夜	中僧都	戸田 恵信	二・一六	少僧都	岡 知道
一・一六	大講堂	権中僧都	松山 智道	二・一七	権中僧都	三井 蓮孝
	晨朝	少僧都	上田 英典	二・一八	律 師	北畠 心淳
	日中	権大僧都	島 義恵	二・一九	中僧都	南部 義幸
	大講堂	権中僧都	安田 真源	二・二〇	権中僧都	栗真 光暁
二月御影堂常在説教(晨朝)				二・二一	少僧都	上田 英典
二・一		律 師	松山 智慧	二・二二	律 師	隆 妙灑
二・二		権中僧都	田中 明誠	二・二三	権少僧都	真置 信海
				二・二四	大律師	北畠 大道

敬 弔

二・二五 大律師 高島 光憲
 二・二六 権大僧都 浦井 宗司
 二・二七 中僧都 戸田 恵信
 二・二八 権大僧都 松田 信慶

二月御影堂常在説教（速夜・日中）

二・七 速夜 中僧都 青木 義成
 二・八 日中 権中僧都 栗廻 隆興
 二・九 速夜 権中僧都 上杉 祥樹
 二・一〇 日中 権中僧都 中村 宜成
 二・一五 速夜 権中僧都 田中 明誠
 二・一六 日中 律師 水谷 忍英

高田慈光院 月例法会

一・二六 権少僧都 真置 信海
 二・一〇、一六、二六 権大僧都 浦井 宗司

報徳園 月例法会

一・一五 権少僧都 真置 信海
 二・一五 権中僧都 田中 明誠

次の方々が御往生なさいました。謹んで敬弔の意を表します。

令和六年

十二・八

三重県津市白塚町

信行寺前坊守

高藤緋紗子

十二・十三

三重県津市白山町福田山

因誓寺前坊守

齋藤 康子

十二・十六

福井県福井市小幡町

勝林寺前坊守

武田 香

令和七年

一・二十三

三重県松阪市山室町

西楽寺住職

高藤 史憲

贈 大律師

宗門のお知らせ

報恩講懇志芳名

本年度の報恩講（お七夜）例年通り一月九日より十六日御満座まで御執行成り、念仏相続の喜びを十分に味わう事ができました。

ご懇志芳名を左のとおり記載し感謝の意を表します。年に一度のご正忌です。祖徳を偲び来年も懇念をよせられます様お願いします。

本寺専修寺

京都別院

名古屋別院

北海道別院

関東別院

横浜別院

三重第一組西部

智慧光院 玉保院

慈智院

三重第一組東部

成願寺 勝樂寺

浄泉寺

浄運寺

明覚寺 慈光寺

三重第二組甲東部

東海寺

信行寺

長安寺

万年寺

大円寺

善行寺

満願寺

三重第二組甲西部

浄光寺

誓教寺

妙教寺

啓運寺

浄泉寺

三重第二組乙部

法流寺

願正寺

實相寺

長久寺

真楽寺

西源寺

豊久寺

三重第三組

延命寺

浄誓寺

南昌寺

光澤寺

潮音寺

教圓寺

積善寺

深正寺

善徳寺

心覚寺

報恩寺

彰見寺

上宮寺

三重第四組

善休寺

西勝寺

泰應寺

泉光寺

近縁寺

清雲寺

願成寺

勝鬘寺

慈相寺

三重第五組

法泉寺

光徳寺

仲安寺

圓照寺

宗門のお知らせ

三重第十四組

長徳寺 光明寺
宝林寺 惠日寺
西林寺 蓮光寺
法光寺 松原寺

三重第十五組

常福寺 光善寺
光圓寺 誓信寺
善性寺 福泉寺
法善寺 西徳寺

三重第十六組南部

福萬寺 善照寺
西願寺 浄国寺

三重第十六組北部

保智院 海善寺

三重第十七組北部

玉泉寺 深廣寺
西岸寺 遍照寺
乘願寺

三重第十七組南部

教安寺 心光寺
西法寺 願正寺

三重第十八組

龍泉寺 蓮光寺

光源寺 崇顕寺

願誓寺 来教寺

中山寺

三重第十九組乙部

大雲寺 願行寺

三重第二十組

常超院 信最寺

栄信寺 法泉寺

西唱寺 顕正寺

誓元寺 誓覚寺

三重第二十一組東部

信福寺 正行寺

養元寺 三誓寺

正源寺

西願寺 唯願寺

正泉寺 善教寺

興正寺 成満寺

立法寺 聖洞寺

万性寺 正覚寺

浄福寺 大蓮寺

西光寺 欣浄寺

法林寺 真永寺

高山寺 宣隆寺

宗門のお知らせ

三重第二十一組西部	光明寺	勝光寺	本立寺	林昌寺	三重第二十四組乙部	成泉寺	清涼寺	了性寺	蓮性寺
	本浄寺	光福寺	念聲寺	崇徳寺		西蓮寺	法専寺		
	宝珠寺				三重第二十五組南部	唯信寺	西方寺	最勝寺	信光寺
三重第二十二組西部	聖徳寺	金光寺	正信寺	欣念寺		正法寺	満流寺		
	蓮花寺				三重第二十五組北部	青龍寺	林昌寺	正因寺	壽善寺
三重第二十二組東部	弘善寺	西運寺	佛教寺	台蓮寺		專照寺			
	寶祥寺	心海寺	見潮寺		三重第二十六組	花山寺	井福寺	本覚寺	正圓寺
三重第二十三組	称名寺	願行寺	宗休寺	善昌寺		常念寺	願證寺	眞臺寺	常教寺
	隨願寺	法林寺	心覚寺	隨念寺	三重第二十七組	西林寺	光明寺	海念寺	
	西光寺	撰取院	壽福院	良珠院		西林寺	蓮性寺	光蓮寺	妙華寺
	常超院				三重第二十八組	浄徳寺	西向寺		
三重第二十四組甲部東	本照寺	正念寺	真昌寺	慈教寺		光明寺	正蓮寺	光泉寺	栄松寺
三重第二十四組甲部西	正樂寺	要泉寺	大音寺	誓覚寺		本念寺			

宗門のお知らせ

直轄

大仙寺

愛知第一組

至誠院
久遠寺

正覺寺
大圓寺

愛知第九組

西蓮寺
貞印寺
松林寺(豊田) 松林寺(名古屋)

愛知第二組

教津坊
善福寺

静岡県
光福寺
浄圓寺

愛知第三組

万福寺
浄泉寺

幸蓮寺
海隣寺

神奈川県
常專寺

甚行寺

常徳寺

法性寺
妙法寺

眞福寺

東京都
林誓寺

正福寺
澄泉寺
永福寺

愛知第四組

蓮教寺
明徳寺

常照寺
教圓寺

林誓寺

願信寺

宗延寺

本泉寺

万徳寺

岐阜県
善教寺

愛知第五組

満性寺
蓮珠寺

祐傳寺
聖洞寺

京都府
安立寺

大仙寺
栄真寺

浄泉寺

大阪府
一乗寺

正覚寺

聖賢寺

愛知第六組

東泉寺
教聖寺

善明寺
祐福寺

福井第二組

正覚寺
聖賢寺
大乘寺

愛知第七組

聖眼寺
西藏寺

願成寺

大願寺

稱名寺(彦) 眞浄寺

北海道

浄暁寺 長正寺 高山寺 専誠寺
 大徳寺 眞宗寺 弘専寺 誠満寺
 真高寺 莊嚴寺 浄光寺 聖賢寺
 願勝寺

(二月十三日現在)

専修寺竹あかり

くやすらぎの光

今年竹あかり作家川瀬皓平氏の作品と子ども竹あかりの展示のほかに、一身田小学校や高田学苑の生徒たち、さらには一般応募の方々も多数参加して過去最大の約三〇〇〇本を展示しました。たくさんの方の小さなあかりが集まって、浄土のやすらぎに満ちた世界のように、あたたかい光で境内を照らしました。

また、一月十日(金)〜十二日(日)は雅楽倶楽部「雅(みやび)」演奏会も開かれ多くの参加者が御影堂に集まりました。

お七夜婦人連合会

一月十一日(土)お七夜婦人連合会が多くの参加者のもと御影堂に於いて開催されました。

式典では、婦人会代表の方が献花・献灯・献香を行い、法主殿よりお言葉を賜りました。その後、速夜勤行に参拝し鈴鹿市深藕寺住職の浦井宗司師のお説教を皆で聴聞しました。

お七夜高田派青年会

本年のお七夜高田派青年会は報恩講期間中、一月十二日(日)に開催致しました。初心者出勤講習として、青年会事務局が主体となり、初めての方でも安心してお七夜に出勤出来る様にと法式作法や衣体の着用方法・畳み方等の研修を行いました。その後、実際に初夜へ出勤しました。

お七夜はたちの集い

本年は一月十三日（祝・月）に、はたちの集いが執り行われました。

速夜に中陣参拝したあと、賜春館で法嗣殿よりお言葉をいただきました。

また、参加者には将来の抱負を短冊に書き留めてもらい、志を新たにしてはたちの門出をお祝いしました。

お七夜坊守会

一月十四日（火）に開催されたお七夜坊守会には、県外から参加の坊守様も含めて十四名の参加をいただきました。

昨年同様に、はじめに速夜参拝をいたしました。その後、速夜の説教師であった藤井徳雄師を第一

会議室にお招きして、アンケートを元に座談会を開き、より詳しくみ教えを紐解いていただきました。

お七夜婦人会初夜参詣

一月十五日（水）に恒例のお七夜婦人会初夜参詣が行われました。

三重県各地から集われた婦人会の方々や一般の参拝者のほかに、竹あかりを観賞に来られた参拝者も加わって、初夜が始まる午後四時三十分にはたくさんの方が専修寺御影堂に集まりました。

初夜勤行では法主殿が報恩講式の初段・二段・三段を御通読されました。続いて岡崎市浄泉寺住職戸田恵信師のお説教を聴聞して午後七時前に法会が終了しました。

今年のお七夜もおおむね暖かい日が続き、境内いっぱい竹あかりを観賞される方々の笑顔が印象的でした。

お七夜子ども大会

本年は、お七夜子ども大会を中止いたしました。

ののさまを描こう展

今年には十六園から三六五点のご参加をいただき、園児たちの愛らしいののさまに心癒されました。その様子はYoutubeにてしばらく公開しております。

お七夜献書展

今年には六五七点の出品があり、例年通り廊下に展示しました。本年も甲乙付け難い良い作品が集まりました。また各賞は直接教室ごとにお渡ししました。

責任役員会

一月十日(金)御影堂にて十一時四十五分より、法主殿御臨席のもと開催されました。各寺院の責任役員約二〇〇名参加の中、法主殿よりお言葉。宗務総長挨拶に続き、庶務・教学総務より山政報告を行いました。

法主褒賞授与式

一月十五日御日中後、法主殿御臨席のもと法主褒賞授与式が執り行われました。

本年の受賞者

・東京都港区

正福寺住職 (故)英 法悦 師

に法主殿より表彰状と副賞が授与されました。英師は関東別院輪番として活躍されました。

中学生教化合宿のお知らせ

本年は三月三十一日(月)からの二泊三日で、
本寺参拝をはじめ東京ディズニーシーや土肥金山
にも立ち寄る予定となっております。多くの参加者を
募集いたします。詳しくは教学課までお尋ねくだ
さい。

写生大会のお知らせ

長年開催してきました高田本山の写生大会は、
昨年をもって終了いたしました。

興学布教研究大会のお知らせ

四月二十九日(火)十時より高田会館ホールにて
興学布教研究大会を開催いたします。
開会式を行なった後、三名の方に発表していた

だきます。

発表者一	慈光寺	衆徒	藤山 真朋 師
発表者二	大乘寺	副住職	吉尾 真祐 師
発表者三	蓮珠寺	住職	安藤 純海 師

教学院だより

教学院主催

教学院公開講座案内

令和六年度 第四回 布教伝道研修講座
(実演発表)

日時	令和七年五月十四日(水)
	午後一時半 開講式
	午後一時四十五分 法話実演
	午後三時四十五分頃 終了

会場 高田本山宗務院二階 第一会議室

テーマ 「本願力回向の宗教」

講師 花岡 静人 師

本願寺布教使・勝光寺住職

実演者 富山翔眞 氏

三重十組 延寿寺衆徒

上杉祥樹 氏

三重十四組 松原寺住職

どなたさまもご自由に聴聞ください。

同和問題に取り組む会 報告

定例会――一月十九日、二月十三日、三月十三日、

四月十六日、五月二十四日、

六月二十六日、七月二十三日、

八月二十三日、九月二十四日、

十月二十二日、十一月十九日、

十二月十八日

・教団内の人権意識を高める啓発、施策
・機関紙『同朋』Vol. 15の発行（八月）

三重同宗連前期研修会

（六月十四日 真宗大谷派三重教務所）

「なぜ部落差別について学ぶのか？ ―部落差別の現状と課題―」

反差別人権研究所みえ 事務局次長 本江優子氏

「基本法」三重 講演会

（六月二十四日 県人権センター）

「私からはじめる 私たちの多様性社会」
とよなか国際交流協会 三木幸美氏

今後の研修

三重同宗連後期研修会「部落差別問題」基礎学習

（二月十九日～二十日 大阪人権博物館「リバテ
イ大阪」 羽曳野市立「南食ミートセンター」）

・真宗高田派人間解放の集い公開講座

(三月三日 高田会館ホール)

「宗教課題としての部落解放運動」 藤井慈等師

活動報告

機関紙『同朋』Vol. 15を発行、先の真宗高田派人間解放の集い公開講座講師の池田徹師の講演録を通し、派内の人権啓発に努めた。

三重同宗連前期研修会では、反差別・人権研究所みえ 事務局次長 本江優子氏の講演があり、宗教者として人権問題について学ぶ必要性をあらためて認識した。

「基本法」三重 講演会では、とよなか国際交流協会 三木幸美氏の講演があり、多文化共生への支援を通し人権学習を深めた。

本山行事予定

(三月・四月)

三月十三日

第七十六回檀信徒研修会

三月十七日～二十三日

讚佛会

三月二十六日～二十七日

平等院殿三年忌法会

三月三十一日～四月二日

中学生教化合宿

四月六日～十日

千部法会

四月九日～十日

十万人講法会

四月十一日

戦没者追弔法会

四月二十日

花まつり

四月二十九日

興学布教研究大会

下付金のお知らせ

平成三十年度分院号下付金、及び納骨壇加入下付金を専修寺正味財産に計上いたしました。

(令和六年五月三十一日付)

院号冥加金、及び納骨壇加入冥加金の下付金は納入された年度から、五年を経過したものは、専修寺正味財産に計上されるため、交付出来ませんのでご注意ください。

詳しくは宗務院財務課までお尋ね下さい。



宗門のお知らせ

真宗高田派共済会のご案内

●全寺院対象の共済制度●

真宗高田派共済会運営規程による各種制度

○見舞金

- ・本堂全焼及び全壊 100万円
- ・本堂半焼及び半壊 60万円
- ・庫裏全焼及び全壊 60万円
- * 災害を証明する書類が必要
- ・境内地並境内建物が災害を被った時は、2万円をお見舞いする
- * 被害総額が100万円以上の場合となります

○祝金

- ・本堂新築及び改築 60万円
- ・本堂を除く境内建物の新築および改築 10万円
- * 工事費が1千万円以上の場合となります
- * 高田派代表役員が発行した新築・改築の承認書と
工事契約書の写しが必要

○住職退職慰労金（住職の死亡から6ヶ月以内に申請のこと）

在任期間により給付金が異なります

- ・住職在任80年以上90年未満 90万円
- ・住職在任70年以上80年未満 80万円
- ・住職在任60年以上70年未満 70万円
- ・住職在任50年以上60年未満 60万円
- ・住職在任40年以上50年未満 50万円
- ・住職在任30年以上40年未満 40万円
- ・住職在任20年以上30年未満 30万円
- ・住職在任10年以上20年未満 20万円
- ・住職在任10年未満 10万円

○香料（退職から6ヶ月以内に申請のこと）

上記住職退職慰労金を適用する但し慰労金を支給された住職は該当しない

○真宗教学奨学金（毎年4月末日までに申請のこと）

- ・高等学校生及び真宗各派の専修学院生 月額 2万円 若干名
- ・大学生及び大学院生 月額 4万円 若干名
月額 8万円 若干名

○奨励金（毎年4月末日までに申請のこと）

共済会が指定した学校学部にて入学したときに

4万円を支給します。

給付及び申請のお問い合わせは、下記の共済会担当までお尋ねください。

真宗高田派共済会 真宗高田派宗務院内

電話 059-232-4171 FAX 059-232-1414

人権擁護啓発活動重点項目

- 一、国際時代にふさわしい人権意識を育てよう。
- 一、子どもの人権を守ろう。
- 一、高齢者の人権を尊重しよう。
- 一、病気・部落などによる差別をなくそう。
- 一、障害者の完全参加と平等を実現しよう。

「三重県人権教育基本方針」より抜粋

令和七年二月二十日印刷
令和七年二月二十日発行

三重県津市一身田町二八一九番地
電話（〇五九）二三三―四一七一
<http://www.senjui.or.jp>

真宗高田派本山専修寺

発行所 **宗務院**

振替〇〇一五〇一―一五一九四番

三重県津市一身田町七六五番地

印刷所 **相和印刷所**

電話（〇五九）二三三―二〇七〇

パスワード：T4ka6a8a（半角英数文字です）